



つばさっ子

2015年

2月号



今月の行事



3日(火)		節分行事
6日(金)	18:30~20:30	ぱんだぐみ懇談会
9日(月)		避難訓練
10日(火)	9:00~11:00	ぞうぐみ懇談会
14日(土)	9:00~11:00	きりんぐみ懇談会
20日(金)	10:00~ 14:30~15:30	誕生日会 力士とふれあい交流会(5歳児参加) アトムにて↑
27日(金)	18:30~20:30	うさぎぐみ懇談会
28日(土)	9:00~11:00	りすぐみ懇談会+試食会
3月1日(日)	10:00~12:00	バザー in アトム(職員主催)

避難訓練をしました1/9→

つばさ共同保育園では、災害時の保護者への連絡は、Eメッセージというシステムを利用して事前に登録されている携帯のメールへ送信します。携帯を変えてメールアドレスが変更になった方や、祖父母の方のアドレスも登録したいなど、ご希望の方は事務室までお尋ねください。



絵本とピアノのコラボレーション1/29

アトムの川越詩月・ちとせ母とピアノ教室の先生方による絵本とピアノのコラボレーション。スライドで絵本を写し、その内容に合わせてソロや連弾で聞かせてくれました。自然と手拍子を始める子どもたち。最後は、アナ雪の「レット・イットー・ゴー」を演奏してくれみんなで歌いました。



【パパ懇が終わりました】

仲嶺 真弓

2015年の1月が早くも終わりました。あつと言う間に過ぎ去ったように思います。年明けの行事はパパ懇（父親懇談会）から始まり101家庭中25家庭のお父さんの参加でした。いつもパパ懇の参加者が少なく、職員はどんな内容ならお父さんは参加しやすいのか毎回頭を悩ませます。あるお父さんからは人数少ないのに続ける意味があるのかな？という質問をいただいたこともありました。つばさ開園当初は“父親懇談会”という行事ネームを使っていたので、それが固いイメージを先行させているのかも…という意見もいただいたので、“パパ懇”に変更しました。日程設定も毎回悩むところです。けれど、やっぱりお父さんとももっとたくさん話をしたいし、保育園に興味をもってほしい。だからいろいろ試行錯誤しながら企画を考えています。そう思うのは日頃から職員の中でも同じように保育について考えること1つとっても、男性と女性とでは考える視点が微妙に違うようにも感じ、その違いが子どもを理解する上で視野を広げ、いろいろな角度から考えることができると思うからです。だから、お父さんが保育園に来てくれることがとても嬉しく思う職員なのです。今回は初参加というお父さんもいれば、回を重ねての参加のお父さんもいて父が司会者のクラスもありました。各クラスでどんな話になったかは、パパ懇報告ページに詳しく載せていますのでそちらをご覧ください。



途中からひよこ・りす合同



大森父司会のぱんだ



きりん・ぞう合同



うさぎ

【第30回 くまとり子育てと保育を考えるつどい】

1月25日（日）に開催しました。

今回のテーマは、「スキルアップの道しるべを探る ～私を知ろう・みつめよう～」

参加者は、総勢59名（外部の方17名、現役保護者7名、OB保護者2名、職員32名）でした。

外部参加者の中には、千葉県から来られた学生の方もいました。つばさ共同保育園の保護者の方も数名参加してくれました。ありがとうございました。

実行委員山本美穂の初めの挨拶文に内容が込められているので、以下に掲載します。

『くまとり子育てと保育を考えるつどいは、今回で30回目を迎えました。昨年は保育士や教師を目指す学生を対象に行い、保育所の職場作り、職員同士の関係づくりをテーマにした集いを行い、ご好評を頂きました。

今回はその第二弾として、学生と専門職の方々を対象にし、「スキルアップと自己肯定感」をテーマにしました。今回のつどいのキャッチフレーズでもある“自分を見つめ、自分を知る”ということは、一見とても簡単なように思います。しかし、そこにはそれぞれ自分の壁に対面し、それを越えようとするための努力や葛藤があるものです。場所は違っても、そんな経験談を参加して下さった皆さんと語り合うことで、“スキルアップと自己肯定感について”考え合いたいと思っています。

この会が、私達職員も含め、参加して下さった皆さんにとっても、実りのあるものになると嬉しいです。』

【実行委員】 アトム共同保育園 【上原峰子・上野由美子・川野良子】
つばさ共同保育園 【志賀教子・大野京子・山本美穂】

【プログラム】

- 10:00 アトム・つばさ共同保育園紹介スライドショー上映
アトム・つばさ職員のトーク
…葛藤・苦悩から掴んだ「スキルアップ」「自己肯定感」
(鳥羽・田倉・吉尾)
- 10:40 参加者と職員の意見交換・交流会
テーマ「スキルアップ」と「自己肯定感」について
- 12:00 終了



発表を熱心に聞き入る参加者



ディスカッション時は車座で

事務室の窓から(不定期コーナー)

～大人の生涯学習の場としての保育園～

事務室 一森すずえ

1月11日、早稲田大学で行われた「子ども・若者フォーラム 2015 未来を担う子どもたちを育む～子育て・親育ち～」にパネリストとして参加しました。何を発表するか考えたとき、真っ先に浮かんだのは「大人の懇談会」のことでした。そもそもニュータウンに新しくできた保育園 3年目の保護者や職員の関係はどうか？という電話から始まった今回の打診。保育士でもない私ですが、「大人の懇談会」が開催されるまでの様子や新規採用や転職組が半分を占める職員関係のこれまでの2年10か月のことなら話ができると思いました。フォーラムでは3人のパネリストが発表。一人は「子どもの見ている風景を共に見、感じる」という保育実践の発表、もう一人は「多世代交流（地域交流の実践）」卒園しても戻って来れる『卒園児の会』を3年目で立ち上げたことの発表でした。3人目の私は、「ゼロかからの人間関係～意識的に密な関係を作っていこうとする地道な積み重ねこそ必要～」という保護者や職員間の話をしました。午前中にそれぞれのパネリストとコーディネーターのお二方も発表をし、午後から質疑応答という流れでした。お昼の休憩時間中に午前の参加者からの質問を見せて頂きました。

大人数や時間が取れない中での保育で工夫する点についてのことなどもありましたが、保育者同士（職員同士）の行き違いや、保育を完全に保育サービスと捉えている保護者を、共に考える保育の枠へ呼び戻すにはどうしたらよいかなどの質問に、多くの参加者が大人の関係や価値観の相違に苦慮していることを感じました。保育園だけでなく、学童、小学校、一般企業でも大人の関係の難しさをみんな感じているのです。私はこれらを読むまで、自分の発表内容が未来を担う子どもたちを育むというお題とずれていないか気になっていましたが、一気に吹き飛びました。子どもにとってよい保育環境を保证するには、保護者と職員間、また地域の方々などの大人の関係をなしに議論することはできないのです。

つばさができる前のアトム時代から、各クラスの懇談会、父親懇談会、本音を語り合うための職員会議、その他先日行われた今年30回目を迎えた「熊取子育て保育を考える集い」など、同じ議題を大人が集って共有し議論する場が大切にされてきました。各クラスの懇談会や父親懇談会では、園での子どもの育ちを親に伝える機会でもありますが、大人がそういった議題を通して違う価値観を認め合う機会でもあります。そういうことを繰り返し重ねて行くことで大人同士の関係が築かれて行くのだと、改めて実感することができました。そんな関係がまた良い形となって子どもたちへ返っていくこともあります。これからも、長くアトムが大切にしてきた保育と様々な大人の生涯学習の場としての保育園を支える一助になりたいと思います。

※（その他の感想）

東京の電車難しかった～。
あと極力大阪弁を封印して話したのに
「大阪弁ってあったかいですね～」とか「大阪弁って何でも面白く聞こえますね」何人かに言われてしまいました。

